

平成 24 年度文学研究科共同研究 研究成果報告書

申請者氏名	吉田耕太郎（よしだこうたろう）
-------	-----------------

研究課題名	ヨーロッパ文化としてのグランドツアー
-------	--------------------

研究組織

氏名	所属機関・部局・職名	専門分野
吉田耕太郎	文学研究科・准教授	ドイツ文学
小澤京子	東京大学 グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）」・特任研究員	美術史
北原博	北海学園大学 法学部・教授	ドイツ文化史
桑木野幸司	文学研究科・准教授	イタリア建築史
服部典之	文学研究科・教授	英文学
山上浩嗣	文学研究科・准教授	フランス文学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究の目的・計画

目的

ヨーロッパでは17世紀から19世紀はじめまで、グランドツアーと呼ばれる修養旅行がおこなわれていたことは良く知られている。グランドツアーの旅程や規模は様々であったが、ギリシャ・ローマの古典文化の花開いた、キリスト教の聖地イタリアを目的とするという点で共通していた。グランドツアーは、その意味で、ヨーロッパの文化の担い手たちが共有した体験であったといえる。本経同研究は、このグランドツアーをナショナリズム勃興前の汎ヨーロッパ的な文化の共通基盤として研究する可能性を検討するものであった。

計画 本研究は下記の4点を柱に行われた。

- （1） 本研究科スタッフによる研究会の開催
- （2） 学外の研究者をまねいたワークショップの開催
- （3） 将来大型科研としてグランドツアー研究を応募するための足がかりの獲得
- （4） 長期的な共同研究のための基盤形成

研究成果

【2012年9月、10月】

数回にわたり、研究分担者の桑木野、服部、山上、吉田の4者で、各自の問題関心の提示、それについての議論を重ね、グランドツアーという現象の共通理解をめざすと同時に、グランドツアーという問題設定の射程さらに効果的な問題設定について議論を重ねた。また本共同研究の具体的な進め方を協議し、2013年1月と3月に、学外2名の研究者を招いての研究会を開催することに決め、各分担者にグランドツアーという切り口からの研究のテーマの設定を依頼した。

【2013年1月】

大阪大学にて、第1回の研究会を開催。発表は、吉田による本経同研究の主旨説明、ならびに、1999年（スイス）と2000年（フランス）の2回にわたってライナー・バーベルとヴェルナー・パラヴィッチーニによって開催されたグランドツアーに関する大規模な国際学会を含む、これまでのグランドツアー研究の総括し、グランドツアー研究の可能性について議論した。その後、各分担者が、3月に開催する研究会のテーマについて30分の発表および30分の議論を行った。この研究会の場では、研究成果のまとめかたについても議論がかわされた。論集の形で出版も提案されたものの、グランドツアーという問題設定が大きいために、論集にまとめるには、研究分担者の問題関心のさらなるすり合わせが必要であるとの結論に達した。そのためにも、まずは研究発表会を実施し、本テーマについて集中的に議論することを優先し、その開催場所を北海学園大学に決めた。

【2013年3月】

北海学園大学にて研究発表会をおこなった（発表40分、質疑20分）。また研究発表には、本研究科博士後期課程の津田雅之も参加することになった。各分担者の発表は下記のとおりである。

吉田耕太郎『狂気 ― イタリア旅行のひとつのトポスをめぐって』

津田雅之『クルティウスとローマの関係をめぐって ― 同時代人との交友を手がかりに』

小澤京子『サドのイタリア紀行 ― 空間性と時間性、身体への眼差し』

桑木野幸司『庭の掟（Lex hortorum） ― 初期近代イタリアの庭園の公開性について』

北原博『ゲーテとイタリア旅行』

山上浩嗣『モンテーニュのパイディア ― 書物と旅による「判断」の形成』

服部典之『女性版グランドツアー？ ― 恋と逃走のジャマイカ』

本シンポジウムでは活発な質疑、議論がおこなわれ、まずグランドツアーのような地域横断的な文化現象の研究には、本経同研究のような、ヨーロッパ各地域の専門化の共同研究が必要であることを参加メンバーはあらためて痛感した。本研究科共同研究という枠組みではこのメンバーによる研究会は終了したわけだが、大型科研の応募に向けて、問題設定をさらに練り上げるためにも、定期的に研究会を開催することを確認した。

研究発表 [①論文・書籍、②口頭発表、③研究会開催、④その他に分けて記入してください。]

【論文】

- ・ 桑木野幸司 「思考の庭：知の編集空間としての初期近代イタリアの庭園」、『Arts and Media』、no.3、pp. 26-46、2013 年 3 月。
- ・ 桑木野幸司 「Ut architectura poesis—テキストの中の建築」、『Arts and Media』、no.3、pp. 214-217、2013 年 3 月。
- ・ 小澤京子 2012年4月「モダニズム都市と幻想——昭和初期のイメージとテキストから——」『魔術／美術——幻視の技術と内なる異界』（会期2012年4月13日-6月24日）愛知県美術館、55-57ページ（査読無、展覧会カタログ）。
- ・ 小澤京子 「映画の基盤を掘り崩す」『ユリイカ』no.614、vol.44・9、212-219ページ（査読無、商業誌）、2012年8月。
- ・ 吉田耕太郎 「化粧室の子どもたち」『独文学報』28号、61-83頁、2012年11月。
- ・ 小澤京子 「COMME des GARÇONS、あるいは衣服という表面においていかに多様な性を上演しうるか」、西谷真理子編『相対性コム デ ギャルソン論——なぜ私たちはコム デ ギャルソンを語るのか』フィルムアート社、220-244ページ、2012年12月。
- ・ Koji Kuwakino, “The great theatre of creative thought: The Inscriptiones vel tituli theatri amplissimi ... (1565) by Samuel von Quiccheberg”, *Journal of the History of Collections*, 2013; doi: 10.1093/jhc/fhs025.
- ・ 山上浩嗣 「パスカルと三つの無知」、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第53号、67-104頁、2013年 3 月。

【口頭発表】

- ・ 津田雅之 ‘Curtius’s Awareness of a European Citizen through his Relationship with Unamuno and Ortega’, International Euroculture Conference 2012, How does Europe engage with cultural citizenship?, University of Deusto, Bilbao, June 22-23, 2012.（査読有り）。
- ・ 小澤京子 表象文化論学会第7回大会企画パネル「皮膚／表象としての建築／ファシズム——小澤京子『都市の解剖学』、鯖江秀樹『イタリア・ファシズムの芸術政治』を読む」ディスカッサント（登壇者：岡田温司、田中純、多賀茂、鯖江秀樹、小澤京子）、2012年7月、東京大学。
- ・ 桑木野幸司 「記憶と方法：シェンケルの『記憶術の宝庫』（1610 年）における叡智の家について」、「人知の営みを歴史に記す 中世・初期近代インテレクチュアルヒストリーの挑戦」、2012 年 7 月 7 日、立教大学。
- ・ 桑木野幸司 「庭園と都市—イタリア庭園の歴史から現代日本の都市空間を再考する」、2012 年 8 月 24 日（金）18:30~20:00。大阪市まちづくり情報発信施設「アイ・スポット」（淀屋橋 odona2 階）（アウトリーチ：※本研究は科研費（課題番号 23820026）の助成を受けたものです。）
- ・ 小澤京子 2012年10月「C・N. ルドゥの理想的都市構想における労働・教育・性愛」美学会第63回全国大会、京都大学。
- ・ 山上浩嗣 「パスカルにおける人間の尊厳」、第 48 回ラブラー・モンテーニュ研究フォーラム、神戸大学六甲キャンパス、2012 年 10 月 20 日。
- ・ 津田雅之 ‘Deux grands fleuves en géopolitique européenne : Curtius et Magris’, Extraterritoriality of languages, literatures and civilizations: assessments and prospects, Paris 12 Val de Marne

University, October 18-20, 2012. (査読有り)

- ・ 小澤京子 「Think of Fashion 002 keisuke kanda 「ガーリー」の突然変異」、「Think of Fashion ファッションを考える」実行委員会主催、2012年11月、カフェ&ギャラリー「ブロックハウス」(東京)。
- ・ 桑木野幸司 「Landscape Gardening」、アジア・デザイン・エンサイクロペディアの構築 2012 年度研究会、11月3日、国際高等研究所
- ・ 桑木野幸司 「思考の庭：情報処理空間としての初期近代イタリアの庭園」、大阪大学文学研究科・研究教育フォーラム、2012年11月15日
- ・ 桑木野幸司 「ムネモシユネの宴：初期近代イタリアの文芸・視覚芸術におけるテキストとイメージの通底」、エクフランス研究会：古典学と美(術史)学の間、大阪大学会館、2013年3月23日、主催：科学研究費補助金基盤研究(C)「弁論術から美学へ——美学成立における古代弁論術の影響」(研究代表者：渡辺浩司)
- ・ 津田雅之 「クラウディオ・マグリスと宮本輝ードナウ川の表象をめぐって」(日本比較文学会第48回関西大会、2012年、11月17日、立命館大学)(査読有り)
- ・ 小澤京子 「情念定型のメタモルフォーゼ——ベル・エポックのニンファ」、シンポジウム「ヴァールブルク美学・文化科学の可能性」、平成24年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「ヴァールブルク美学・文化科学の可能性」(研究代表者:伊藤博明)主催、2012年12月、東京大学。
- ・ 北原博 シカネーダーの『魔笛第2部. 迷宮』について 北海道ドイツ文学会第75回研究発表会 北海道大学 2012年12月15日
- ・ 山上浩嗣 「パスカル『パンセ』の人間論——「中間」者としての人間、「神あり」への賭け」、平成24年度第2回大阪大学研究活動等実地研修(文学研究科)、大阪大学豊中キャンパス、2012年12月20日。
- ・ 山上浩嗣 「パスカルと繊細の精神」、第72回大阪大学フランス語フランス文学会研究会、原亨吉先生追悼シンポジウム「パスカルと17世紀の科学・哲学」、大阪大学豊中キャンパス、2013年3月2日。
- ・ 山上浩嗣 「パスカルと三つの無知」、パスカル没後350年記念シンポジウム、山上浩嗣・武田裕紀共同開催、大阪大学豊中キャンパス、2013年3月24日。